

1 主題設定の理由

ICT 環境の整備・活用により教育の質を向上させ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指す GIGA スクール構想が、中学校において全面实施となつてから4年が経過した。

本市においても「未来の教室」をテーマに GIGA スクール構想の実現を目指しており、端末の整備やソフトの導入、ICT 支援員の配置、ICT 活用に向けた研修等の充実が図られている。

そこで、本班では、各学校の GIGA スクール構想の実現に向けた取組をまとめ、成果や課題を共有する中で、さらなるカリキュラム・マネジメントの充実に向けた教頭としての役割を明らかにするために本主題を設定した。

2 研究のねらい

GIGA スクール構想の実現に向けた各学校の取組とその取組に対する教頭の役割について考察し、カリキュラム・マネジメントの充実に資する。

3 研究の概要と成果

(1) 櫛中学校の取組

① 授業での活用

ア 各教科でロイロノートやキュビナを活用して授業改善を図った。

イ 作品やワークシートをタブレットで提出させて集約したり、生徒の活動を動画で撮影したりして評価に生かした。

② 授業以外での活用

ア 講話や生徒総会の資料配付やアンケートの回答でタブレットを活用した。

イ 職員会議の資料や情報共有、連絡を集約したポータルサイトを活用した。

③ 研修体制の整備

ア 情報教育推進リーダーが中心となり ICT 支援員の協力を得ながら、全体研修やグループ別研修など多様な形態での研修を実施した。

イ 市教育委員会と連携し、本校の取組事例として、校務 DX の推進に関する動画「Chromebook で始まる中学校の1日」を発信した。

(2) 宮崎中学校の取組

① 授業での活用

ア 各教科において、課題の指示や配付、提出等は、ロイロノートを活用して行った。

イ ロイロノートを用いて、生徒自身の考えを引き出したり、他の生徒の考えを共有化したりして、協働学習推進の一助とした。

ウ キュビナやロイロノートのテストを活用し、単元内容の理解力を高めた。

② 授業以外での活用

ア Google Meet を用いて、集会や生徒会発表等を実施した。また、生徒総会に向けた学活でもロイロノートを活用して行った。

③ 研修体制の整備

ア 情報教育推進リーダーや、タブレット端末操作のスキルを習得している職員が中心となり、デジタルスキルの向上を目指して、全体研修や個別研修など、多様な形態での研修を実施した。

(3) 宮崎東中学校の取組

① 授業での活用

ア 次時の準備物の連絡や各教科で課題の指示や配付、提出等を、ロイロノートを活用して行った。

イ キュビナを活用し、生徒の進度に合わせた課題に取り組みさせた。

ウ 小テストを Google Form やロイロノートのアンケートとテスト機能を使って実施した。

エ 週末の課題をロイロノートで配信し、取り組みさせている。データが残るので何度でも取り組むことができる。

オ 国語や英語では、音読の様子を録画させ、ロイロノートで提出させている。評価にも活用できる。

② 授業以外での活用

ア 全校集会や生徒総会、中体連の壮行会、PTA 総会等において Zoom を活用して実施した。

イ 学級担任が、不登校傾向の生徒（同意が得られた場合）に対して、Zoom を活用して定期的に面談を行った。

③ 研修体制の整備

ア 研究主任、技術科担当の職員や情報教育推進リーダーがタブレット活用の効果的な活用について紹介し、全体研修やグループ別研修など多様な形態で実施した。

イ Chromebook への移行に向けて、ICT 支援員による全体研修や個別相談を計画的に実施した。

(4) 宮崎西中学校の取組

① 授業での活用

ア ロイロノートで、課題の指示、資料の配布、生徒からの提出、そして返却といった一連のやりとりを行った。また、生徒の意見を集約・共有することで、協働的な学びを促進した。

イ 調べ学習など、生徒が自分のペースで進められる自由進度学習に活用した。

ウ 英語科では、発音やスピーキングの技能習得のため、生徒に音声や動画を録音・録画させて課題として提出させた。

② 授業以外での活用

ア Zoom を利用して、集会や生徒会での発表、講演会などをオンラインで配信した。

イ 週末や長期休業中の課題として、AI 教材のキュビナを活用し、生徒の自学をサポートした。

③ 研修体制の整備

ア 情報教育推進リーダーや ICT 支援員、

タブレット操作に習熟した教員が中心となり、校内研修を実施した。

イ 教員には外部の各種研修へ積極的に参加することを推奨し、スキルアップを促した。

(5) 東大宮中学校の取組

① 授業での活用

各教科でロイロノートを日常的に活用した。

ア 課題の指示や配付、提出として活用した。

イ グループ活動での意見の共有・まとめ・発表の中で活用した。

ウ 不登校生徒へのオンライン授業として配信した。



[写真：グループ活動の様子]

② 授業以外での活用

ア 長期休業中の課題としてキュビナを活用し、個々の習熟度に応じて取り組ませた。

イ 気温に応じて集会や行事等で Zoom・Google Meet を活用した。

③ 研修体制の整備

ア ICT支援員による研修(Googleアプリの活用)を行い、活用の動機付けとした。

イ 情報教育推進リーダーによる夏季休業中研修(Googleの便利な使い方)を行い校務や授業での活用の動機付けとした。

(6) ひなた中学校の取組

① 授業での活用

ア 個別最適な学びの1つとしてキュビナを活用し、生徒それぞれの習熟度に応じた問題を提供した。

イ オンライン授業の実施やロイロノートを活用した個別支援など、生徒の実態や特性に応じて ICT の活用を図った。

② 授業以外での活用

ア 各種アンケートや面談希望日調査などを Google Forms を活用して行い、集計の効率化を図った。

③ 研修体制の整備

ア 宮崎市教育情報センターの職員等を講師として、Chromebook の活用に関する研修を実施した。

イ 情報教育推進リーダーや学力向上推進リーダーを中心に、タブレット等の活用に関する共通理解や、授業実践を通じたスキルの向上を図った。

(7) 宮大附属中学校の取組

① 授業での活用

ア 技術科、理科、数学科では生成 AI を活用した授業を行った。

イ 理科ではロイロノートをワークシートとして利用しており、シンキングツール

を使い探究の流れになるように工夫した。また、評価をつけて返却した。

ウ 全ての教科もロイロノートを教科独自で活用した。

② 授業以外での活用

ア 生徒会活動、体育大会、合唱コンクール等の練習、朝や昼休みの活動等において、生徒がロイロノートを使って対話やアンケート、結果分析等に活用した。

イ 欠席の生徒に、ワークシートや授業の板書等を、ロイロノートで送付した。また、不登校生において文科省の推奨プログラムを活用した家庭学習や Teams を活用した遠隔授業を行った。キュビナの活用も併用した。

ウ 教育実習においても、実習生がロイロノートを使えるようにアカウントを取得し、実習授業で活用した。

③ 研修体制の整備

ア 情報教育担当が研修を行ったり、必要なスキルや、活用できるアプリなどをロイロノートや C4th で情報共有したりした。また、ペーパーレスのためタブレット等を使用して職員会や研修等を行った。

4 教頭としての役割

GIGA スクール構想の中学校における全面实施とともに本研究に取り組み始め、4年が経過した。各学校の取組も授業や校務において幅広い ICT の活用が日常化し、学習活動の充実や校務の効率化につながっている状況が見られる。

こうした状況を踏まえて、教頭が担う共通の役割として、主に次の2点が挙げられた。

○ 教育の情報化の目的の共通理解と検証

教育の情報化の目的には、学習基盤となる「情報活用能力」の育成がある。その資質・能力を育成するために、ICT を適切に活用することが肝要であり、ICT を活用すること自体が目的化しないように PDCA サイクルを意識し、効果検証・分析を行いながら教育課程に基づくカリキュラム・マネジメントの充実に努める必要がある。

○ ICT 活用に関する情報の共有

ICT の活用に関して、教職員間の個人差は大きく、また、教育の情報化とともに、教育に活用できる OS やアプリケーション等を含むソフトウェアやウェブサービスは多種多様となっている。そのため、行政と学校や学校間の連携を図るとともに、校内外の人材を活用しながら教育の情報化推進リーダーを中心として ICT に関する情報や操作方法を含む活用法を共有する体制を整備する必要がある。

5 今後の課題

次期学習指導要領改訂に向け、多様な生徒を包摂するための柔軟な教育課程が検討されている。今後は、ICT の活用は当たり前として、マクロの視点をミクロの視点に転換し、従来は伸ばせなかった資質・能力の育成や学校内外での学びの保障・充実のための教育課程の編成、組織的、計画的な教育の質の向上が課題と考える。